



ハウチワカエデの紅葉

こもれびの森 ウッドランドクラブ通信 11, 12月号

宮城県こもれびの森森林科学館 2013年11月25日(発行者 島 貴 房 雄)

栗原市花山字草木沢角間10-7 Tel/Fax0228-56-2330

<http://mifi.main.jp/komorebi.htm>

今月のウッドランドクラブ

●3日に「紅葉の中でノルディックウォーク」も「こもれびの森」が一松山県有林で行われました。ボールの持ち方や歩き方は初心者の方でもすぐ覚えられます。曇りがちの天気でしたが、晴れ間も出てきて森の中を歩くには絶好の日よりの天気となりました。道端ではキノコを観察し、まだ残っていたクサギの実の青色の鮮やかさには皆、感激しました。昼食はサポーターの方が用意してくれた「はっと汁&焼きイモ」を美味しく、参加の方は満足されたようです。

ノルディックウォーク

16日花山小学校で、地域の方々や、幼稚園・小学校の子どもたちとのバザー&交流会が行われました。児童の皆さんが何日も前から準備をした手作りのお祭りです。

花山地区の全人口が集まったのかと思うほどの人たちにぎわいます。地元の食材を使った料理コーナーには人だかり。当館は昨年と同様にクラフトを出店しました。地域との交流を実感した一日でした。



ノルディックの様子



クズで出来た籠

10日みやぎ自然環境

サポーター養成講座開催

講座内容は、●「病害虫の対策と樹木の診断」●「里山の管理の仕方」●「野外炊飯の楽しみ方」です。受講生の年齢層は高いですが、落ち着いた雰囲気の中でも、活発な質問もあり先生もタジタジ?立派な感想もあり、さすが熟年層は違うなと感じました。

お昼には野外炊飯の体験で、ピザづくりに挑戦。先生が前の晩から寝かせておいてくれたボール状の生地を受講生自身が平らにし、思い思いに具材をトッピング。質の高い石窯のピザ焼きを体験しました。

石窯完成秘話

一昨年、協会の佐藤元副会長から「耐火レンガ要らないか?」の電話、一瞬のひらめき・・・「そうだ、炊飯場のかまどがあまり使われていない!」

「石窯、俺が作ります!」サポーターの三浦さんが手を上げてくれました。「粉じんが飛んでくる、音がうるさい鳥が逃げる」、「まだできない?」と言われながらも、めげず良く頑張ってくれました。

耐火モルタルで隙間を丁寧に埋め、地震対策は金具で補強もしており、完成度はかなり高いです。窯自体は小さいので、火の通りが良く、温まりやすくできています。使い勝手はかなり良いです。ピザやサツマイモの焼き具合は最高です。



サポーター養成講座講義の様子



16日鳴子公民館来館(クラフト体験)

11月28日、花山小学校3,4年生4人と鈴木先生が園内に「どんぐりの森」を作りに来てくれました



左側長木用 短木用



NEW玉切り用馬製作

石窯に使う薪はけっこう消費します。薪用に除伐した木はチエンソーで玉切りするのですが、意外とこれが大変。腰に負担はかかるし、木を固定するのも上手くいきません。専用の玉切り用馬もなかったので、さっそく作ってみました。

以前、ST社(株)の総合カタログに玉切り用馬の写真があり、それを参考にしました。

角材は余ったものを再利用、ボルト、ナットなどはホームセンターから購入。特長は長木と短木両方切れること。横木を下に配置し安定感を保ったこと、腰に負担がかからない高さにしたこと。手前ミノですが良い出来です。

しま所長のコラム

#37 嶋選手のスピーチ「絶対に見せましょう、東北の底チカラを」。東北楽天ゴールデンイーグルスが日本一になり、私たちに大きな感動と勇気を与えてくれました。それにしてもしびれました。

振り返って、自分はどうだったろうか?来館者や参加者の方が満足していただろうか、相手に自分の思いが伝わっているだろうか、発言にふれはないだろうか、自問自答もすることがあります。星野監督の「日本一を取る」は有言実行で私たちの夢を実現してくれました。素晴らしいです。指揮官やリーダーは、言葉にはふれないスタンスが大切だと改めて認識しました。

さて、当館は12月から冬期間の閉館を迎えます。今年も毎回のウッドランドクラブは、会員のご支援や当館サポーター、職員の皆さまのご協力で成しとげられました。書面をお借りして、感謝申し上げます。